

大田区景観計画 変更素案に寄せられた区民意見に対する区の考え方

資料3

「大田区景観計画 変更素案」に関する区民意見公募手続(パブリックコメント)の期間中に区へ寄せられたご意見とこれに対する区の考え方をお知らせします。

1 意見の募集期間

令和6年6月10日(月)から7月1日(月)まで

2 意見数等

(1)意見者数 4名(内訳:電子申請3名、郵送1名) (2)意見数 9件 (3)区ホームページ閲覧数 735回 (4)X(旧Twitter) 420回(いいね、リツイート等) (5)Youtube再生回数 351回

3 提出された意見の要旨と区の考え方

ご意見については、趣旨を損なわない範囲で要約または一部を抽出しています。

No.	意見要旨	区の考え方
1	大森八景坂景観形成重点地区の指定に伴い、建築物の建築等の届出対象が全てとなるが、パブリックコメントだけでなく、対象地の地権者等への直接的な通知が必要なのではないか。	大森八景坂景観形成重点地区の指定に伴い、建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更の場合、全てが届出の対象となります。今回の大田区景観計画の変更に係る周知については、地権者組織や自治会・町会への説明に加え、当該地に関わる地権者等を対象とした説明会、パブリックコメントの実施、区HP、SNS及びYouTubeを活用した情報発信を行いました。また、今後の対応として、変更案の決定・告示を行うことで、変更内容を広く周知してまいります。
2	大田区景観計画で示す色彩基準は、地味で暗い色調が中心に感じる。景観計画の厳しい色調規制により、学校の外壁が暗い色で統一されてしまうことで、本来明るい建物であるはずの子どもの学びやが暗いものになってしまった悪い事例だと思ふ。 入新井第一小学校の外壁の暗さについて、近隣からの苦情はないか。 また、景観計画の基準に基づいた公共施設において、色調に関する課題等はないか。	大田区景観計画の変更に伴い、以下の考え方を基に色彩基準を設定しております。 ・2階以下は、駅前としての賑わいをつくるため、基本色の無彩色について明度の上限を定める他は、現在の大田区景観計画で定めている色彩基準のままとしております。 ・3階以上は、緑と調和した落ち着いた色合いとし、高層の建物が圧迫感を感じさせることのないよう、外壁に使える色を設定しています。また、崖線上から八景坂周辺への眺望に配慮し、屋根色の色彩基準を追加します。 上記の色彩基準により、2階以下は駅前としての賑わいを創出し、3階以上は、圧迫感の軽減に配慮した景観を誘導してまいります。 また、入新井第一小学校をはじめとした公共施設は設置目的に沿った役割を果たすだけでなく、地域の景観づくりを先導するために、景観計画に基づいた景観形成を推進しております。
3	指定する場所に坂を追加する件、景観形成重点地区追加については意見なし	「大森の玄関口として、地形や歴史・文化を活かした人が主役の景観づくり」を目指し、良好な景観形成を一層推進してまいります。
4	歴史のある建物や店舗を守ってほしい。具体的には「地獄谷の飲み屋(山王小路飲食店街)」で戦後80年かけて形成された価値のある資産であるため、このような庶民に親しまれた建物等も評価した公共施設の景観形成をしてほしい。	公共施設については、大森八景坂地区の顔となるよう将来のまちづくりを見据えた空間デザインや豊かな緑の創出を図ることともに、周辺市街地と一体的な空間となるよう配慮することでヒューマンスケールの感じられる空間とすることを方針として定め、景観形成を行ってまいります。 また、住民説明会やパブリックコメントの意見を踏まえ、大森八景坂景観形成重点地区の基準を定め、大森駅西口周辺の景観誘導を図ってまいります。
5	清浦さんの坂について、アイストップの確保に努めるという記載に対して、既存の樹木がアイストップの役を果たしているため、人工的な目印をアイストップとして促すような記載は適切ではないと考える。	大森八景坂景観形成重点地区及び景観保全誘導区域の坂道沿いでは、アイストップとなるような緑などの確保に努める旨、景観形成基準に定めております。 その一例として、景観形成基準を適用した際のイメージをP14に記載しており、「清浦さんの坂」については、既存の樹木がアイストップの役割を果たしている様子を描いております。 なお、アイストップとは、まちかど等にある建築物や樹木など、人の視線を引き付ける役割を果たす対象物で、単調な景観に変化や魅力を与えるものを指しています。
6	計画に記載のあるカタカナの用語(アイストップ、ヒューマンスケール等)は一般的に理解しづらい場合があるため、大田区で暮らしている人々がわかる言葉の記載、あるいは注釈を希望する。	カタカナの用語(アイストップ、ヒューマンスケール、ファサード)については、注釈を追加し、用語の意味を記載します。 【用語の解説】 アイストップ ⇒まちかど等にある建築物や樹木など、人の視線を引きつける役割を果たす対象物で、単調な景観に変化や魅力を与えます。 ヒューマンスケール ⇒人間の尺度を基準として、人間が安心して快適に感じられる適切な空間の規模やものの大きさを示すものです。 ファサード ⇒主に建築物の正面の外観のことであり、建築デザインの重要な要素であるとともに、街並みを形成する重要な役割を果たします。
7	池上通りが拡幅されることで、JRの線路際にある商店街はどのようになるのか。	都市計画道路の区域内に入っている線路際の商店部分(駅西口出口より南側)については、タクシーや自家用車・荷捌き車両等の駐車場所を本線交通と分離する形で整備する予定です。
8	今回の景観計画改定に際し、大森駅西口側の開発および天祖神社周辺を景観保全誘導区域に指定することに住民として賛同する。	ご賛同ありがとうございます。 「大森の玄関口として、地形や歴史・文化を活かした人が主役の景観づくり」を目指し、良好な景観形成を一層推進してまいります。
9	今回の景観計画の追加指定は、「過ごしやすい綺麗な街づくり」として大切な計画であり、大田区が発展し、より良い街になる事を強く願っている。 今後の具体計画では、「ベビーカーや車椅子が通りやすい」「車道に十分な自転車レーンを確保する」「無電柱化」など、「子育て世帯、高齢者や身体障害のある人が使いやすい安全安心な環境」の観点を加えて頂きたい。	南北崖線の地形、複数の坂、豊かな緑や賑わいのある商店街などが本地区の景観上の特徴を活かした景観づくり、歴史・文化と調和した景観づくり、眺望に配慮した景観づくりを進めてまいります。 また、今後の補助第28号線(通称:池上通り)拡幅に伴う整備効果は、以下が期待されます。 『交通の円滑化』 バス・タクシーや荷さばき車両等の駐車場所を本線交通と分離することで、駅前の交通混雑が緩和されます。 『安全で快適な駅前空間の創出』 現在の幅員3m程度の歩道幅員を5m程度に広げることで歩道部の混雑を解消し、歩行者・車椅子・ベビーカー等地域の皆さまが安全・安心に通行できるようになります。 『交通結節機能の強化』 歩道部の混雑解消やバス乗降場との移動がスムーズになり、乗換利便性が向上します。 『防災性の向上』 無電柱化することにより、震災時等の電柱倒壊による道路閉塞を防ぎ、緊急車両の通行や緊急物資の輸送が可能となります。